

青梅市の市立学校施設の在り方に関するアンケート調査

(調査に御協力ください)

全国的な少子高齢化に伴い、青梅市でも市立学校に通う児童・生徒が最も多かった昭和 58 年の 17,320 人から、令和 6 年 5 月 1 日時点では、8,041 人まで減少（▲55%）しています。今後更なる減少が見込まれることと、山間部から都市部まで、広い市域を有する本市では、地域ごとの学級規模の不均衡が生じております。この不均衡により、教育環境においても市内で均一な教育が提供できない恐れもあります。

また、厳しい財政状況のなか、校舎や運動施設などの各施設は、建築から 40 年以上経過している建物が数多くあり、老朽化が進んでおります。児童・生徒の安全面についても課題が生じております。

さらに、新型コロナウイルス等による社会情勢の変化や I C T を活用した学習環境など、こども達を取り巻く環境は目まぐるしい変化が生じております。

このような中、青梅市教育委員会では「こどもたちが、知性、感性、道徳心や体力をはぐくみ、郷土を愛する人間性豊かな市民として成長すること」を目指し、「青梅市立学校施設のあり方審議会」を設置し、青梅市の地域性および特性に即した学校施設の在り方について審議しております。

このアンケートについては、現在のこどもたちのみならず、将来のこどもたちの為に、真に学校施設の在り方を検討する上で、審議会での議論を充実させることを目的としております。調査は無記名であり、すべて統計的に処理するため回答者が特定されることはありません。

また、他の目的には一切使用いたしませんので、お考えのままをご回答ください。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ぜひ調査にご協力いただきますようお願い申し上げます。

青梅市教育委員会

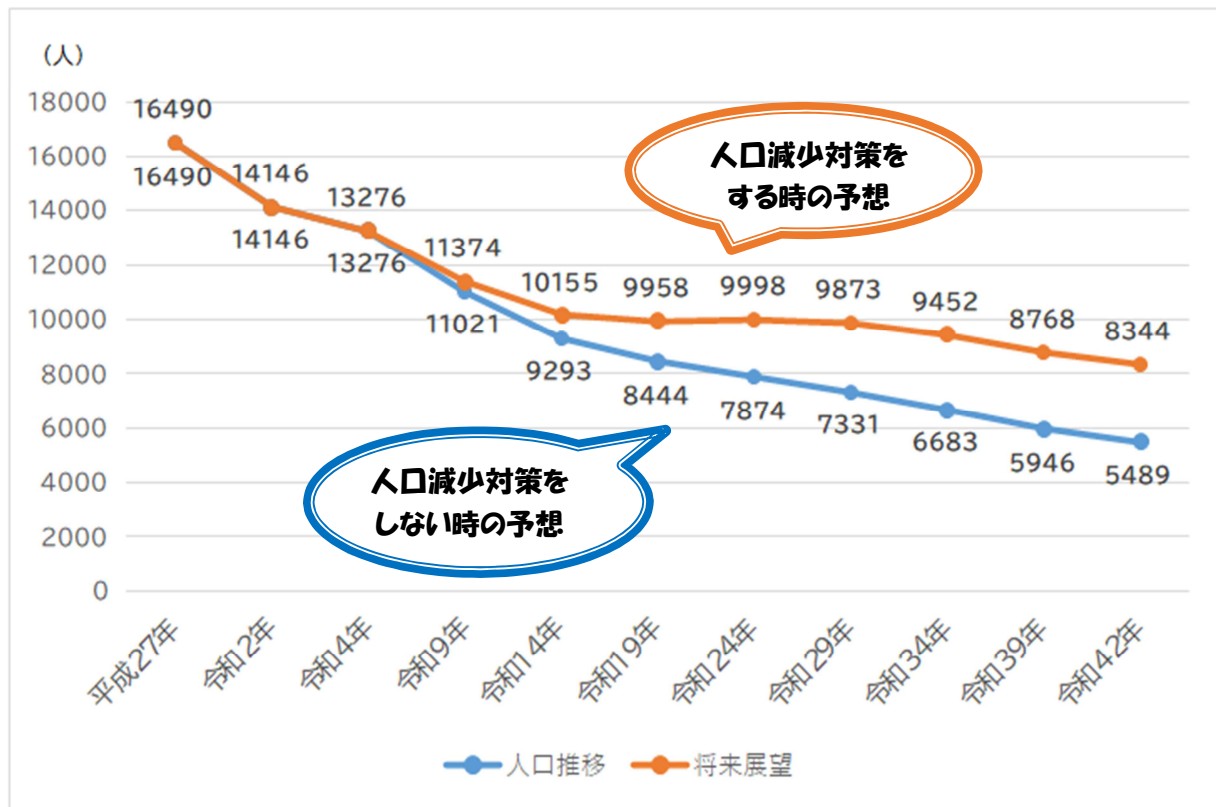
1 0歳～14歳の人の数（「青梅市人口ビジョン」「未来カルテ」）

(1) 日本と青梅市の0～14歳の人の数

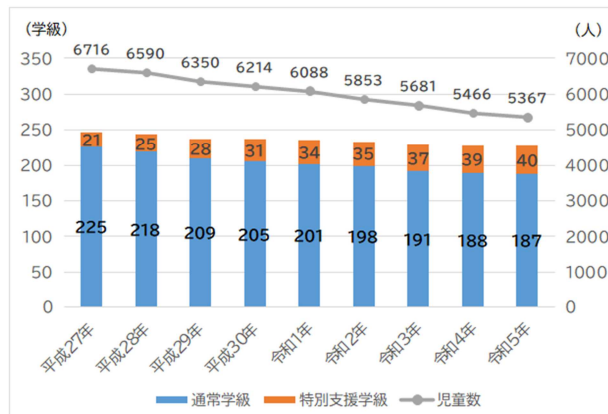
日本全体の0～14歳の人の数が昔に比べてどんどん減ってきています。この後、30年後、50年後になるともっと減る予想です。青梅市の0～14歳の人の数も同じように減っていて、これからも減る予想です。

青梅市では色々な方法で人の数を減らさないような取組をしています。この効果によって、人の数が減るスピードをゆっくりにすることはできます。でも、人の数が減っていくことは止められません。

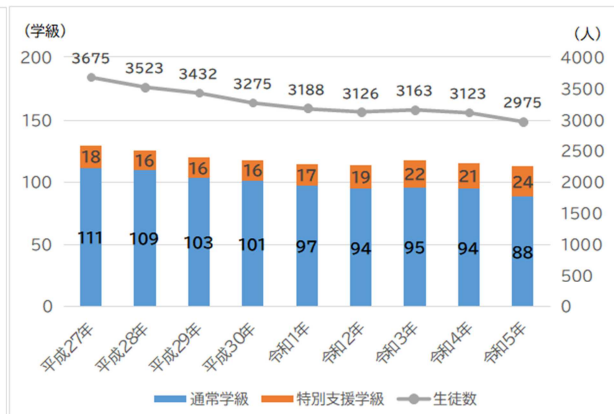
青梅市の年少人口(0～14歳)人口推移・将来展望(出典:青梅市人口ビジョン)



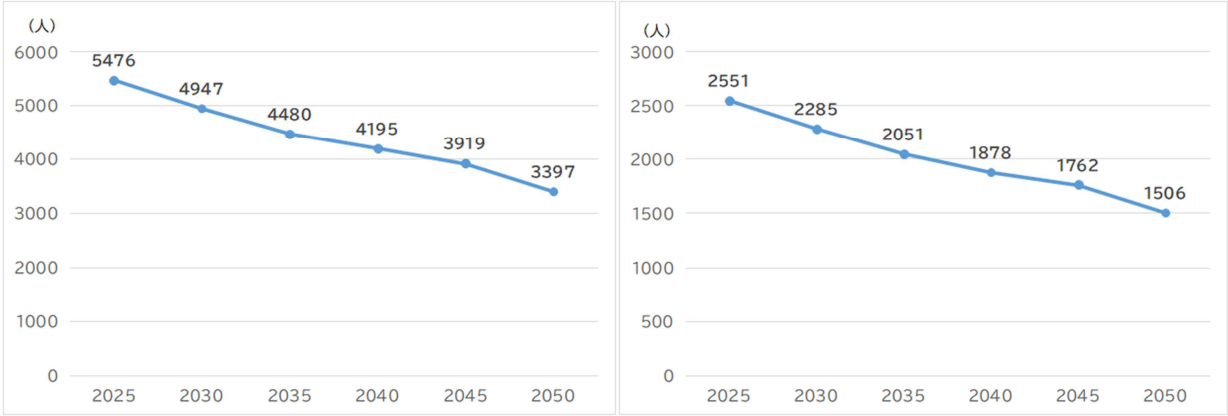
小学校のクラスの数・人数



中学校のクラスの数・人数



小学生の人数の予想(出典:未来カルテによる推計値) 中学生の人数の予想(出典:未来カルテによる推計値)

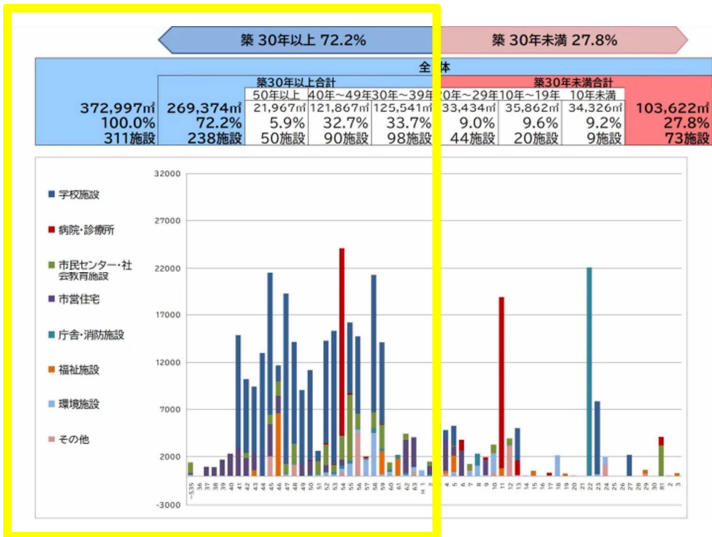


2 青梅市の建物(「青梅市公共施設等総合管理計画」「青梅市学校施設個別計画」)

(1) 青梅市の建物の数と面積、何年前から建っているのか。

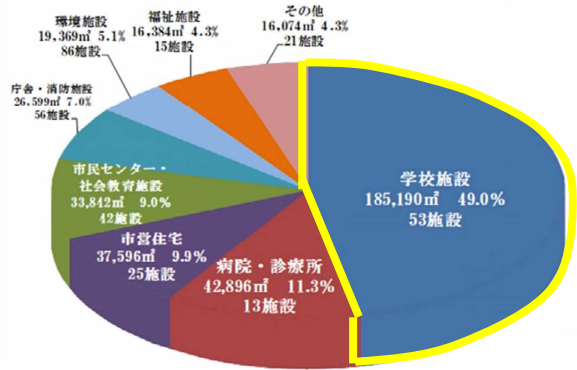
青梅市が持っている建物は2023年3月に311個ありました。その全部の面積を足すと、約37.8万㎡です。その70%以上が30年以上前に建てられた分です。特に、学校施設の多くが、30年以上前に建てられています。

青梅市が持っている建物の
72.2%は30年以上前に
建てられた



(2) 青梅市の建物の面積と学校の面積

青梅市の建物の面積のなかで、一番大きい建物は「学校施設」です。青梅市の建物の面積のだいたい半分(49.0%)は学校です。

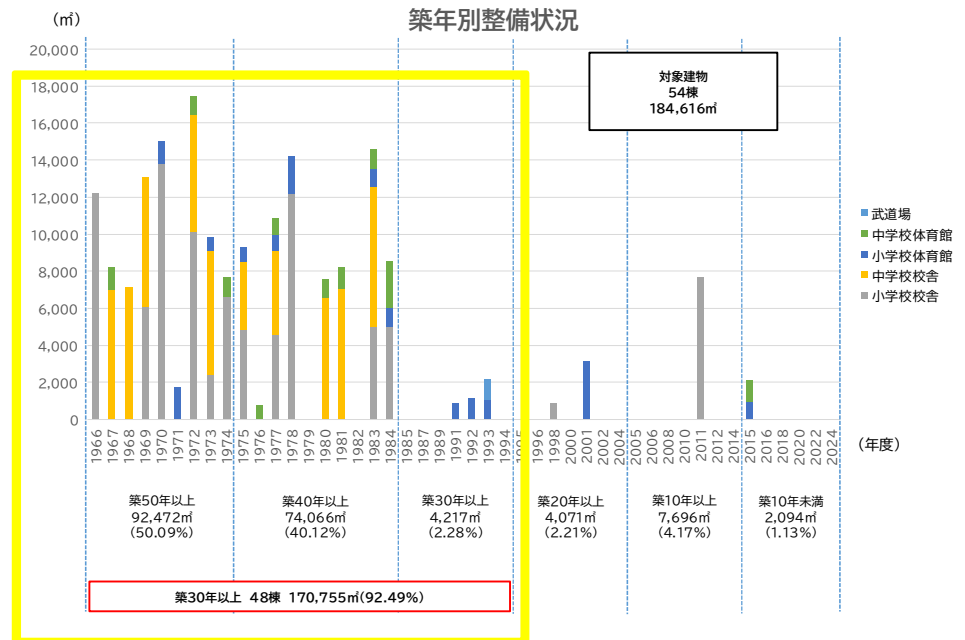


青梅市が持っている建物の
だいたい半分(49%)が学校

(3) 学校施設

学校施設は約 60 年前(1965年)から約 40 年前(1985年)に建てられた建物(校舎、屋内運動場)がほとんどです。2024年(令和6年)から数えると、ほとんど(9割以上)の学校施設が30年よりも前に建てられています。

青梅市の学校ほとんど
(92.5%)は30年以上前
に建てられた



3 学校規模(令和2年「青梅市学校施設個別計画」から要約)

(1) 1つの学校のクラスの数について

国が決めたクラスの数の標準と、青梅市の学校規模適正化基本方針が決めたクラスの数の適正基準は下の表の通りです。

国の決めた標準 (文部科学省学校規模標準)	小学校	12クラス以上18クラス以下
	中学校	12クラス以上18クラス以下
青梅市 適正規模	小学校	12クラス以上24クラス以下(各学年2~4クラス)
	中学校	9クラス以上18クラス以下(各学年3~6クラス)

(2) 1クラスの人数の作り方

国が作った1クラスの人数の分け方、東京都の1クラスの人数の分け方、特別支援学級の分け方は下の表の通りです。

また、青梅市は、1つの学校にあるクラスの数は同じでも、1クラスの人数も考えるべきだとして、クラスの最小規模を20人と決めています。

※複式学級とは、1クラスの人数がとても少ない(東京都の場合は1クラス5人以下)の場合に、連続した2つの学年が同じ先生から同じ教室で授業を受けることです。例えば、2年生が1クラス3人、3年生が1クラス4人だと、7人で同じ先生から同じ教室で一緒に授業を受けます。

国が決めた 1クラスの人数 (文部科学省 学級編成標準)	小学校1年生	1クラス35人
	小学校2年生～6年生	1クラス40人
	中学校	1クラス40人
	小学校複式学級	連続する2つの学年が1クラス16人(1年生を含む場合は8人)
	中学校複式学級	連続する2つの学年が中学校で8人
東京都が決めた 1クラスの人数 (青梅市も同じ)	小学校1年生～5年生	1クラス35人
	小学校6年生	1クラス40人 ※令和七年度に小学校6年生も1クラス35人になる
	中学校	40人学級 ※中学校1年生は1クラス35人の場合もある
	小学校複式学級	1年生と6年生を除く並ぶ2つの学年が10人 ※1クラス6人以上なら複式学級にはならない
特別支援学級	小学校・中学校	1クラスの8人まで

4 小規模特認校制度

通う子どもの数が少ない学校が、子どもの数が少ないことの良さを生かして、1人1人に合う勉強方法や活動方法を考えたり、色々な体験や活動を行っている学校です。どこの学校に通うのかは、住んでいる場所によって決まっていますが、この学校は青梅市内のどこに住んでいても選んで通うことができます。そういう学校を「小規模特認校」といいます。

青梅市では、成木小学校と第七中学校が「小規模特認校」です。